

令和5年度 四條畷南小学校 学校経営計画

四條畷市立四條畷南小学校
校長 杉本 政信

1 学校経営方針

子どもたちを取り巻く環境はめまぐるしく変化をしており、人生100年時代や超スマート社会(Society5.0)の実現に向けた人工知能(AI)やビッグデータの活用などに向けた、急速な社会システムの変革に対して、学校教育の果たしていく責任は日々増している。

これからの未来を生き抜く子どもたちに求められている力は、互いのもちあじ(多様性)を活かしながら様々な課題解決に向けてつながりを持って協働し、より良い社会を築いていこうと努力し続けることであると考えている。

そのような子どもたちを育てていくために、南小では、自分の将来に夢を持ち、しなやかにたくましく生きる力を育成していきたいと考える。四條畷市教育振興基本計画を基に、今年度の学校教育目標を以下のように設定した。

【学校教育目標】

「夢を持って自ら学び、たくましく生きる子ども」

～ つながり 安心安全 協働 家庭との連携 ～

今年度は、以下の視点について重点的に全ての教育活動の中で意識し取り組んでいく。

- ①子どもどうしの「つながり」を深めていく。子どもたちどうしが自分の考えや立場をはっきり伝えていくこと(非攻撃的自主主張)で、よりよく他者とつながっていくことができる事、自信をもって他者とつながる事を意識した活動を教育活動全般でおこなっていく。
- ②「安心安全」な学校・学級の環境づくりを全ての教育活動でおこなう。自分がここにいる大丈夫であることや、自分を受け入れてくれる人がいることを大切にしていく。また全ての教育活動の中に、共生の視点や安心ルール、自分の心や体、命を守る学びの機会を保障していくことをおこなう。
- ③「協働」的な学びの場づくりを通して学力向上をはかる。仲間と様々な課題の解決に向けて学びあったり、学んだことを活用して相手にわかりやすく伝えたりする学習の場の設定をおこなっていく。
- ④「家庭との連携」を深めていく。子ども理解を深めるためには、家庭環境も含めた子どもの背景理解が不可欠であるし、保護者に対して学校での様子を丁寧に伝えていくことや理解・協力をあおいでいくことで、教育効果が上がっていくと考える。

2 めざす学校像、子ども像、教師像(中期目標)

★めざす学校像	確かな学びのある学校 安心安全で地域に信頼される学校
★めざす子ども像	夢を持って学ぶ子ども 自分も仲間も大切にできる子ども
★めざす教師像	子どもに生きる力をつけられる教師 子どもを理解し寄りそえる教師

(様式1)

3 学校の現状（よさと課題）

(1) 子どもたちの実態

本校児童は明るく素直で、友だちにも親切にやさしく接することができる児童が多い。知的好奇心も旺盛であり、楽しそうなことや新しい事に対して意欲的に取り組むことができる。子どもたちの根底にある自己肯定感・自己有用感の高さが上記の内容を下支えしていると感じている。しかし一方で、自分の考えや気持ちを丁寧に相手に伝える力や、自分の未来をイメージしながら夢に向かって努力する力、計画を立てる力や学習をふりかえる力の育成が課題である。

(2) 子どもたちを取り巻く環境

①教育環境

本校児童の家庭環境について、保護者は我が子に対する愛情や関心を持って子育てをおこなっている家庭が多い。家庭での教育環境については、子育てについての考え方が多様であることや、保護者の多忙さなどから校区内でも一様ではない（習い事に通う児童の数、家庭学習に保護者が関わる時間など）。

②地域

伝統的な地域のつながりを保ち、地域のおとなたちで子どもたちを見守り育てようとの意識をもっておられる地域の方は多い。学校安全協議会や民生委員、地域コーディネーターをはじめとして、子どもの安全確保やすこやかな育成のために熱心に力を貸してくださる方も多い。

③組織（教職員、PTA、保護者）

教職員は学校全体の課題や個々の児童の課題を共有しようとする意識を持っており、新しい取り組みへの共通理解も早い。児童への関わりを丁寧におこない、児童保護者との信頼関係を構築していく力を持っている。また教職員どうしのサポートや協力も相手意識を持ち行動している教職員が多い。

保護者の学校への期待や関心は高く、学級・学校の取り組みへの理解も得られやすい。PTA活動などで保護者が参加する取組み等については今年度大きく変化があると予想される、保護者と学校がどのように子どもを中心にすえて協働していけるのか、取り組み方について検討を重ねていく必要がある。

4 今年度の達成目標、具体的な方策

目標設定区分1 『学校の経営』

A 今年度の成果目標		達成基準（各種調査、アンケート等）
学力向上に学校組織をあげて取組み、児童に主体的・対話的で深い学びを実現する。		下記「B 達成基準」参照
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
基礎基本の学力を向上させる	NRT 偏差値平均50以上	授業改善加配を中心とした複数教員による指導、ユニバーサルデザインを意識した授業づくりなど、理解や定着に時間が掛かる児童にとっても安心で、理解しやすい授業づくりを行い、確実に学力の定着を進める。
読書活動の充実	児童アンケート「家	学校図書館の整備、「図書の日」での教科学習との横断的

(様式1)

	庭での読書時間」 まったくしない 20%以下	な活用を進める。自主的活動の一環として図書委員会の活動 を活発に行い、図書室への意識づけ、家庭での読書の啓発を 進める。
学習内容の認知力の向 上	児童アンケート「学 習した内容につい て分かった点や、よ くわからなかった点 を見直し、次の学 習につなげること ができる」最肯定6 0%以上	何を学習したのか、わかったことは何なのかを認知し次の学 習への調整力を高めていく。具体的には学習指導部を中心に 「リフレクションシート」を研究活用し、児童のメタ認知力向上 を図り、基礎基本の学力の定着と、自己調整力を向上させて いく。

目標設定区分2 『学校組織の運営』

A 今年度の成果目標		達成基準 (各種調査、アンケート等)
主体的、対話的で深い学びを実現できるよう教 職員の意識を高め、組織的な取り組みをおこなう		下記「B 達成基準」参照
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
児童が課題解決に受け て話し合い、協働的な学 びの場をつくり、自分の 考えを「書いて」表現でき る力をつける	右記具体的方策に 対応する児童アン ケート項目それぞ れの達成	○児童アンケート「自分で課題を立てて情報を集め整理して、 調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」 肯定的回答 80%以上 ○教職員アンケート「児童が課題解決に向けて話し合うなど、 協働的な学びの設定に取り組んでいますか」最肯定50% 本校の研究テーマにそって、児童が意欲や相手を意識して 「書いて表現する」教育活動についての知見を深めるような国 語科の授業研究を進める。また系統的な作文指導や、語彙力 をつける朝学ワークをおこない基礎的な力の獲得をめざす。
ICT 活用の推進、校務支 援システムを利用した働 き方改革の推進	児童アンケート 「ICT を使用する ことで、進んで学習 するようになりました か」肯定的回答 90%	一人一台の児童用タブレットを有効に学習活動に活かせるよ うに、校内でも情報共有や研修を行う。市の SAMR モデルを 指針として授業でいかに児童が機器を活用してアウトプットで きるかを研究実践していく。 タブレット PC の安全な使い方について児童・教職員とも学び 安心して使用するための方法を子どもたちに理解させていく。

目標設定区分3 『人の管理・育成』

A 今年度の成果目標		達成基準 (各種調査、アンケート等)
児童の自己肯定感・自己有用感を向上させ、 自分を高めようとする意欲を育てるために、教 職員の資質向上を図る。		下記「B 達成基準」参照

(様式1)

B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
安心・安全な学級集団づくり	右記具体的方策に対応する児童アンケート項目:否定的回答が10%以下	○クラスの中に自分の気持ちを分かってくれる人がいる ○クラスの人から認められることがある ○みんなのためになることを見つけて行動している。 上記の観点を立て、自信をもって人間関係を築き、積極的に挑戦する意欲を育てる。友だちや下級生に対し、互いの違いを理解し、助け合う心情を育てる。
不登校への対応	不登校ゼロ	校内・家庭での表出する児童の問題行動に対し、校内組織体制で解決に向かう。具体的には、学年部会での情報共有やケース会議での他の関係機関と連携しながら具体的方針検討実行を通して、児童が安心して過ごせる環境整備につなげていく。校内では児童生徒支援 Co や通級指導担当をリーダーとして、気になる児童の見守りや支援を担当と連携しておこない気になる児童のフォローアップを日常的におこなう。
教職員の授業力向上	児童アンケート「国語・理科の授業はわかりやすい」最肯定70%以上	年間を通した国語科の校内授業研修や、授業改善担当の授業づくり研修、各教職員の「ちょこっと研修」を充実し、児童にとってわかりやすい授業づくりのスキルを向上させる。

目標設定区分4 『地域連携と渉外』

A 今年度の成果目標		達成基準 (各種調査、アンケート等)
地域コミュニティづくりの推進、家庭教育支援の充実		下記「B 達成基準」参照
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
家庭学習の習慣化	保護者アンケート「子どもは宿題や自主学習にがんばって取り組んでいる」否定的回答10%以下	家庭学習のねらいを明確化し、保護者にも周知する。 西中学校区内での「夢ノート」などの学力向上の取組みを参考に、自主学習の取り組み方を検討実施していく。 自主学習ノートを計画的に取り組む、
開かれた学校づくり	保護者アンケート「学校の教育活動は保護者によく知らされている」肯定的回答90%以上	学級便り、学年だより、学校だより、ホームページでの積極的な情報発信。 コミュニティースクールを念頭においた学校評議員や地域の児童・民生委員との連携と情報交換

(様式1)

5. 全ての教職員で大切にしていくこと

多様性を認める

児童一人ひとりの事を、まず我々おとなが興味をもって理解していきましょう。何でも「いいよ」と安易に受け入れるのではなく、児童の自尊感情を高め、主体性を育てることを一番の優先事項として、一人ひとりに寄り添った声掛けを常に意識していきましょう。

人権感覚を研ぎ澄ます

生活指導 教科指導だけではなく、全ての教育活動の根幹に人権教育が流れているかどうかは何よりも大切なことです。子どもが学校で心が傷つくことを出してはいけません。そのために人権教育を一つのカテゴリーと捉えるのではなく常日頃から人権感覚を研ぎ澄ませ、相手の立場性を意識して、児童・保護者・教職員と関わっていきましょう。

公立学校の使命を果たす

私たちは公立学校(地域に根ざした学校)の職員です。地域のすべての児童をだれ一人見捨てないということが大前提です。南小で働くということは尊い事であり、自分に誇りを持てる仕事です。児童に対し、たとえ服装や持ち物がそろわなくとも、教室に入れなくても、とにかく「安心して学校において」という心構えを持っておきましょう。

児童の力を信じる

ある程度のルールを引くことは大事ですが、途中の停車駅からゴールまで何でも教師が決めてしまっただけでは子どものやる気をそいでしまいます。私たちの思っている以上に子どもたちは力(可能性)を持っています。自分の意見を持てること、自分の意見を言える事を大切にするために、意見をしっかりと聞いていける教職員集団でありましょう。

危機管理意識を共有する

危機管理と言うと管理職がしたらいいと考えがちですが、教職員全員が意識を共有してこそ、安全で安心な学校になると考えます。火事がない時でも消防車はいつもピカピカに磨き上げられています。いつでもだれでもすぐに走って駆け付ける心の準備が必要です。

美しい学び舎をつくる

安全で安心な学校の基本は美しい学び舎であることです。児童が明日も登校したいと思えるような学校でなければいけません。プリントが床に散乱している教室にはだれも気持ちよく入れません。リピーターの多いテーマパークがどのような工夫をしているかに学び、児童と共に美しい学び舎を作ることを心がけましょう。

夢を語り合う

職員室は先生方がほっとできる場でなくてはなりませんから、児童や保護者の愚痴が出るかもしれませんし、それも時には必要です。でもそれ以上に「あいつええやつやなあ」という話がたくさん交わされる職員室は素敵だと思います。時には青臭い教育論や学校への夢を語り合える職員室でありたいものです。

お互いのメンタルを気遣う

おとなだって、いろいろな条件や事情を抱えながら南小で勤務しています。お互いを信頼し多様性を認めることを職員室で果たすことができなければ、児童に多様性を教えることはできません。お互いのメンタルを気遣い、みんなが頑張ろうと思える職員室をつくりましょう。